

一本の大きな木を育てるより、 多くの個性ある木を育て、美しい森をつくる。

イノアックは「暮らしをもっと豊かにしたい」という思いから、ひとつの事業に特化することなく、ウレタン・ゴム・プラスチック・複合素材という4つの苗をもとに、多くの事業(=木)を育て、企業体として多彩な製品、サービスを作り出し、社会へ貢献して参りました。イノアックはこれからも多くの個性ある木を育てることで、時代のニーズにお応えしていきます。

Innovation & Globalization

イノアックは高分子化学で世界をリードし、迅速な決断と行動で、活気と個性に満ちたグローバル集団を目指します。それと共に「行動指針」を定め、社内外ともに裏表のない行動で「企業理念」を確実に実行・実現することで、地域社会、顧客、イノアックに関わる全ての人々に信頼されるブランドを確立します。

行動指針

- 挑戦** 自由に発想し失敗を恐れず行動します。
- 収益** 継続的な事業発展と利益ある成長を目指し行動します。
- CS** 顧客満足度を高めるよう行動します。
- チームワーク** 個性を発揮し、信頼される行動をします。
- 誠実・信頼** 虚偽を廃し、信頼される行動をします。
- 責任** 責任を持って最後まで行動します。

目次

企業理念・編集方針	01
トップインタビュー	02
会社プロフィール	05
【特集】	
環境ソリューションへの貢献	08
【環境との調和】	
環境マネジメント	15
環境負荷の低減	17
化学物質の情報管理	19
環境コミュニケーション	20
【価値向上のために】	
お客様の声を活かした製品づくり	21
サプライチェーンマネジメント	22
【社会とのコミュニケーション】	
社会・地域貢献活動	23
【働きやすい職場づくり】	
ワークライフバランスの推進	25
ダイバーシティの取組み	26
人材育成	27
安全衛生・防災	28
【ガバナンス】	
コーポレート・ガバナンス	29
コンプライアンス	30

【報告期間】 本報告書は株式会社イノアックコーポレーションにおける2014年度(2014年1月1日~2014年12月31日)の活動実績をもとに作成 ※2013年度以前・2015年度の内容も一部含まれます。

【対象範囲】 株式会社イノアックコーポレーション

※一部は海外のイノアックグループを含みます。※環境報告の対象範囲は以下の通り 株式会社イノアックコーポレーション(安城事業所・桜井事業所・八名事業所・南濃事業所・池田工場・池田第二工場・大野工場・神野工場・本社(名古屋)・東京支店・大阪支店)株式会社イノアック住環境の一部を含みます。

【参考とするガイドライン】 ©「環境報告書ガイドライン2012年度版」 ©GRIサステナビリティ・レポート・ガイドライン第3.1版 ©ISO026000

トップインタビュー

ポリウレタンの歴史とともに歩んだ60年を迎え、今後イノアックがめざす未来、またイノアックのCSRについて、株式会社イノアックコーポレーション 代表取締役 翁 豊彦が思いを語ります。



株式会社イノアック コーポレーション
代表取締役

翁 豊彦

多様性は個性。さまざまな個性を育む豊かな「森づくり」に、今後も邁進します。

創業より長い歴史を誇る貴社は、社会のあらゆるニーズに
適応し、今日のビジネスモデルを築かれていることが実に
印象的です。まずは、これまでの歴史の簡単な振り返りをお
願います。

創業は1926年に、自転車用のタイヤチューブの取り扱い
をはじめ、その後、会長の井上が1954年にドイツのバイ
エル社から、日本で初めてウレタンの技術を導入し、その
翌年1955年に日本で初めて生産を開始しました。これを
機に、エム・テー・ピー化成を設立し、その後、井上ゴム工
業の工業用ゴム・プラスチック部門と統合して現在のイノ
アックコーポレーションが誕生しております。

そのウレタンが今や、わたしたちの生活になくはならない
モノになっていますが、その特徴とは？

ウレタンの材料は、活用の幅が実に広く、クッションやマッ
トレス、台所のスポンジなど生活用品からはじまり、

モータリゼーションの発展により自動車、ビルディングなど
幅広い用途へと革新的な成長を遂げました。ウレタン
材料は優れた機能を有する材料です。例えば、断熱性や
吸音性にも優れていることより、人々のライフスタイルを
変える、という画期的な材料であります。当社は、まさに
日本経済の発展とともに成長し、その結果、ウレタン業界
のリーディングカンパニーとして頑張っております。

まさに、社会の変化に適応してきたことが、イノアックという
社名に表されているとのことですが？

INOACの社名には「常に革新<Innovation>し続
けること」と「それを実践<Action>し続けること」と
いう意味が込められています。そして常に上を目指す
「革新=Innovation」と「実践=Action」を欠くこと
はできません。



1950年当時のバイエル社



日本で初めて「モルトブレイン」を生産販売

Innovation
+ Action
INOAC

社会的責任の視点と、環境問題や規制にどう対応していくかが問われ、「PU国際フォーラム2015」を開催された背景にも、イノベーションという決意の表れを感じます。

今回4回目になる「PU国際フォーラム」の開催に当社も協力させていただきました。欧州諸国を中心に、環境規制などの問題が厳しく追求され、社会的責任として対応すべく、これまでのウレタンに勝る技術やビジネス、環境関連など、様々な視点から業界全体で議論しました。世界各国から有識者が集まり、将来のウレタン技術、業界、環境問題について有意義な意見交換ができたのではないかと思います。

すでに当社の生産の多くは、海外にシフトされ、国内外シームレスな状態(14ヵ国70拠点)ですが、当社が単独で推進するのではなく、リーダーシップをとって業界全体を巻き込みながら、グローバル全体で貢献していくことで、この素晴らしい材料を永続的に成長させようと強く感じております。

井上会長が「全員がアキンド」と話されておりますが、日本人ならではの忘れてはならない貴社の強い精神についてお聞かせください。

モノを売るというのは、営業の質だけではない。全員でモノを作り、全員でモノを売るということです。

モノを売るのは営業の仕事ですが、モノを作っている人も、自社のモノを売る機会は多くの場面においてあります。技術でも、管理部門でも全員が商人であり、自分たちが苦勞して開発してつくったモノを全員で売ろうということ。非常に素晴らしい精神だと思っていますし、これは当社における、DNAともいえるスピリットだと思っています。

環境事業を立ち上げられましたが、長年培われてきた貴社のスキル、ノウハウがすでに強みとして結果に出ているかと思いますがいかがでしょうか。

ウレタンは、断熱性を始めとする環境性能にも優れており、必然的に環境事業に結びついています。

この環境事業は、大きく7つの分野からなり、クリーン素材・水環境対応ビジネス・農業緑化ビジネス・省エネルギー・リサイクル・コンフォート・再生エネルギーなどに取り組んでいます。人々が生きていく社会の中で、環境問題と高齢化問題は非常に重要な問題であり、その中の一つとして環境を、事業の柱にしていくことで対応していきます(詳細はP8-9参照)。

また、ものづくりの革新からも環境対応ということで、当社の八名工場に「YESシステム(八名エコロジーシステム)」という、フロンの代わりに炭酸ガスを使った、環境負荷の少ない製造ラインをつくりました(詳細はP14参照)。単にモノを売るだけでなく、モノづくりのプロセスを変えていくということを強く意識し、同時にCO₂排出量削減にも貢献していきたいと考えております。

社長がけん引されてきた自動車関連製品は、現在、売上高シェアの6割前後ですが、自動車業界も環境規制からFCV、HV化、小型EV化というような大きな変革を迎えています。こちらの対応は?

ハイブリッド、電気自動車、燃料電池などに対し、当社の持つ材料は、発泡することでモノを軽くする機能を持っているということです。これまで単に、ソリッドで固くて重かったものを、膨らませて軽量化し、それが最終的に自動車のボディが軽量化し、少ない燃料で車の走行距離を伸ばす。同時に、地球温暖化防止に貢献できるというモデルです。この分野における私たちの果たす社会的使命や役割は、非常に大きいと思っています。



PU国際フォーラム2015



八名工場

断熱性や吸収性、遮音性といった、ウレタンの特徴を活かすためには、貴社の技術や知財、ノウハウが重要な要素かと思いますが、いかがでしょう。

当社のコアテクノロジーは、材料とプロセス。ただ単に形を作るだけではなくて、ゴムであり、ウレタンであり、樹脂であり、そういった一つひとつの組成分からいろいろなものをコンパウンドしながら、あるいは組み合わせながら新しい材料を作っていく。

新しい革新的な材料を使って、多様な作り方、工程・プロセスを開発して新しい機能を生み出す形をつくっていく。材料とプロセスが、当社のイノベーションの基であり、コアテクノロジーと考えています。

ただし、「品質」と「安全」は最優先です。国内外全ての拠点の安全点検、設備点検、メンテナンスを行うと共に、全ての拠点で品質点検を行い、特に重要品質については管理状態の「見える化」を徹底しております。

グローバル化が進む中、現地での社員採用や、人材育成に力を入れているとのことですが、その点についてお聞かせください。

当社のDNAを大切にしつつも、グローバル化の中において、現地のカルチャーをリスペクトせねばなりません。その国の庭をお借りするつもりでビジネスをやるということです。その国のカルチャーを尊重し、ローカルの人たちと一緒に、その国に貢献しながら、ビジネスを発展させていく視点が大切です。

また、私たちが長く続けている「QC世界大会」では、優秀なチームを集め発表したり、グローバル営業会議や、グローバル技術会議などにおいて交流を深め、社員に率先して参加してもらい、集まってきた人たちと交流して、人脈を構築していくことも大切なことだと考えております。

グローバル展開における課題についてはいかがでしょう？

グローバルでは、ますます労務問題や人権問題は大きくなっていると言えます。同時にそれらの解決策は非常に重要なのですが、「性別、国籍、年代などあらゆる要素は個性ととらえる」と発信している通り、各地の問題を抱えながら課題の一つひとつを解決し、その地の習慣を尊重することが、大切な要素かと思えます。

女性の活躍・登用が、企業間でクローズアップされておりますが、貴社の取り組み状況は？

当社は既に、ワークライフバランスを実現し、多様な働き

方を選択できる取り組みを行っております。育児休暇は最長2年で、育児短時間勤務制度の導入や、法律を上回る看護休暇制度などの両立支援にも積極的に取り組んでいます。女性社員の育児休暇取得率は100%。育児休暇後も、復職する社員がほとんどであり、比較的仕事を続けやすい環境にあるかと思えます。

反面、女性社員の比率、女性管理職の比率が圧倒的に少ない点については、まだまだ改善していかなければなりません。女性社員を技術開発、製品開発、マーケティングなどへ積極的に登用し、参加を促進・加速していかなければならないと考えております。

最後に、実に印象の強い、企業理念についてお話しください。

当社の企業理念は「一本の大きな木を育てるより、多くの個性ある木を育て、美しい森をつくる」です。性別、国籍、年代などあらゆる要素は個性と捉え、その多種多様な個性を引き出し、大切に育み、イノアックという森を豊かに美しくしていきたいと考えています。



QC世界大会



海外グループ会社による社会貢献活動

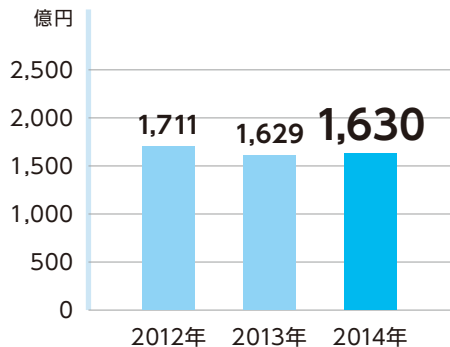


会社概要

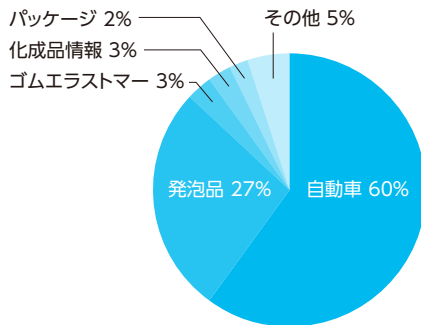
社名	株式会社イノアックコーポレーション INOAC CORPORATION
設立	1954年(昭和29年)
資本金	7億2,000万円
代表	代表取締役 井上聡一
社員数	1741名(2014年12月)
売上高	1630億円(2014年12月)
事業内容	ウレタン、ゴム、プラスチック、複合材をベースとした材料開発とその製品化により、自動車、二輪、情報・IT機器、住宅・建設関連から身近な生活関連商品、コスメ用品まで、様々な場面に密着した製品を取り扱う
本社	〒450-0003 名古屋市中村区名駅南二丁目13番4号
本社(東京)	〒141-0032 東京都品川区大崎二丁目9番3号(大崎ウエストシティビル4F)
事業所および工場	安城、桜井、南濃、西濃、新城、八名、九州、豊橋、武豊、吉良
主要営業拠点	東京、中部、大阪、九州(支店)、札幌、東北、浜松、広島(営業所)
研究所	株式会社イノアック技術研究所
海外拠点	北米、欧州、中国、韓国、東南アジア、スリランカ

売上

■ 売上推移



■ 2014年度事業分野別売上



ネットワーク

国内主要拠点

イノアックコーポレーションの全国ネットワークに加え、系列・関連・合併会社が北海道から九州まで緊密な生産・販売ネットワーク体制を確立し、最適なソリューションを提供しています。

井上護謨工業(株)
(株)イノアックインターナショナル
(株)イノアック技術研究所

〈系列会社〉
(株)北海道イノアック
(株)東北イノアック
(株)東日本イノアック
イノアックエラストマー(株)
(株)西日本イノアック
(株)九州イノアック

〈合併会社〉
BASF INOAC ポリウレタン(株)
(株)ロジャースイノアック 他

〈関連会社〉
(株)イノアック住環境
日本フクラ(株)
(株)イノアックリビング 他

イノアックコーポレーション 本社
イノアックコーポレーション 安城事業所
イノアックコーポレーション 本社(東京)

海外主要拠点

北米・アジアを中心として、全世界14の国と地域で研究開発から素材の加工・成型技術、量産化までを提案・提供する体制を構築しています。

- 〈ヨーロッパ 1社〉
ドイツ 1社
- 〈北米・中米 18社〉
アメリカ 12社
カナダ 3社
メキシコ 3社
- 〈中国 24社〉
中国本土 23社
香港 1社
- 〈アジア 31社〉
タイ 14社
台湾 3社
インドネシア 4社
ベトナム 3社
韓国 1社
シンガポール 3社
フィリピン 1社
マレーシア 1社
スリランカ 1社



製品紹介

ウレタン、ゴム、プラスチック、複合材をベースとした材料開発とその製品化により、自動車、二輪、情報・IT機器、住宅・建設関連から身近な生活関連商品、コスメ用品まで、生活の様々な場面に密着した製品で豊かな暮らしに貢献しています。



シートクッション

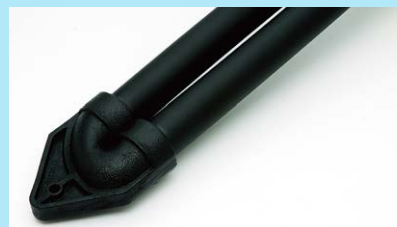


鉄道車両部材

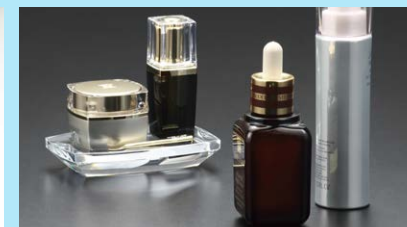


軽量盛土・R-PU工法

ウレタン



地中熱交換システム用パイプ U-ポリパイ



高透明化粧容器

プラスチック



リアスポイラー



シール部材

ゴム・
エラストマー

新素材・
複合材



保冷輸送容器



ラテックススポンジパフ



車輪



炭素繊維強化プラスチック



半導電機能ローラ

技術革新

研究開発

イノアックでは「暮らしを豊かにする」をモットーに、未来を見据え、創造性にあふれた研究開発に取り組んでいます。ポリマーを主体として各種ウレタン、プラスチックやエラストマーの配合・発泡・成形技術、その他複合材料の技術を駆使し、自動車産業をはじめ情報通信・電子機器・産業資材・生活用品等の幅広い分野で常に新しい素材を提供しています。また同時に、環境負荷の軽減、軽量、省エネルギー、高機能化の新製品、新プロセスの研究・開発を進めています。



研究体制

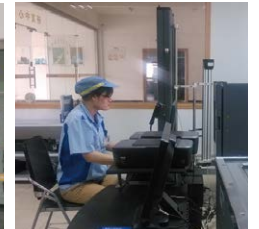
期待を超えるものづくりの実現のため、産業界の先端領域における新素材の開発を核に、環境技術、高機能素材開発、安全技術についての重点的な取り組みをイノアックグループのR&D部門であるイノアック技術研究所で担っています。イノアック技術研究所は中国 (ITC CHINA)、アメリカ (ITC USA)、タイ (ITH) にも拠点をもち、4極で作用しあえる総合R&D部門としてグローバルなネットワークで国内外の新技術に関する情報をいち早く収集し、中・長期的視点から、新規事業主体の研究開発に取り組んでいます。またイノアックコーポレーション各事業部直轄の技術部ではマーケットニーズに直結した技術開発に取り組み、短・中期的視点から、各部門との連携により幅広い素材の選択肢を活かした、既存事業分野主体での技術開発を行っています。



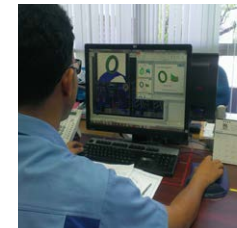
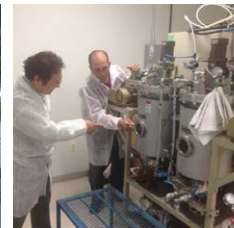
ITC JAPAN
株式会社イノアック技術研究所



ITC CHINA
蘇州井上高分子新材料有限公司



ITC USA
INOAC USA INC.



ITH THAILAND
INOAC (THAILAND) CO., LTD.

